

指定校番号	28087	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度 生徒指導 集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	五日市中学校	校長	岩井 正徳	生徒指導主事	角舎 宏治
-----	--------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『百人一首大会への取り組み』

取組のねらい『キーワード 係わり合い』

「百人一首」を通じて、日本の伝統文化に親しむとともに、学年・学級という集団でのマナーや関わり方、リーダー性を育む。障害のある生徒に対する合理的配慮の存在に気付かせる。「共感的な人間関係」「自己存在感」「自己決定」を意識した取組になるよう気をつける。

取組の具体的内容『キーワード 集団作り』

冬休みの宿題として、「百人一首を覚えること」を伝えておく。休み明けに学級では班で練習を始め、ルールとマナーの確認も行う。配慮の必要な生徒に対してどう関わるかを班や学級で必要に応じて考える。他クラスと交流練習を行うこともある。大会は、1月末に学級対抗（班対抗）のクラスマッチ形式で行い、対戦相手を入れ替えながら競技する。教諭が上の句を読み、一斉に下の句の札を取り合う。取組を通して学んだこと、感じたこと、考えたことなど振り返りシートに記入させ、学級で気持ちを共有する。学級の課題に対してもこの時期に考え、今後につなげて行く事もできる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しみながらみんなが参加する』

事前に国語科、学級活動の取組を通して、百人一首を覚え、模擬的な大会を各学級で行う。その中で、競技のルールを理解させる。特に、静かにするときとそうではないときのメリハリを大切にしておくことを理解させる。また、障害のある生徒に対する合理的配慮について理解を深めさせる。合理的配慮の例としては、難聴学級の生徒のために、手話（指文字）を覚えたり、要約筆記をしたり、スクリーンで上の句を投影したりし、足に障害のある生徒に対しては、椅子とテーブルを用意したり、移動の際に補助を行ったりするなど考えられる。こだわりの強い生徒に対しては、学級や班での話し合いなどの場面で、しっかり意思を伝えあうための時間を多めに確保したりすることもある。

取組の成果（効果）『キーワード 気づき考え』

学級や班で作戦を考え、取り組む中で、集団作りが進んでいく。また、覚える事が得意、苦手に関係なく、競技を行い、振り返りを行い、再度作戦を考える中で、楽しく協力して取り組む力、望ましい集団として成長している。その中で、ルールやマナーの大切さや、障害のある生徒に対する合理的配慮についても生徒の学び・経験が生まれる。

今後の展開『キーワード 2年生に向けて』

学年全体には講評をする中で、もうすぐ後輩ができ、部活動や生徒会活動などでは中心になっていくことを意識させる。学級活動では、振り返りを行う中で、集団作りに必要なことがたくさんあることに気づかせ、再確認を行う。伝統文化も紹介することで、修学旅行につなげていくこともできる。

他校へのアドバイス『キーワード 年間を通じて継続した取組』

本行事は、1年生の最後に学級のまとまりを感じさせ、よりよい人間関係を育むための取組として位置づけ、毎年1月に実施している。

生徒は本行事までの人間関係を基に、お互いをより深く理解していく行事となっているため、次年度、新たな人間関係を築くために有効な取組であると考えている。